

未来の日本のために

「日本の教育は落ちこぼれている。」

これは、法政大学キャリアデザイン学部の尾木直樹教授がおっしゃった言葉です。

八月三日、将来教育に携わった仕事をしたい私たちは尾木直樹教授を訪問しました。訪問予定時間より30分遅れてしまいましたが、笑顔で迎えて下さいました。

尾木先生はまず、日本の教育について話してくれました。日本の教育は他の国に比べてとても遅れているそうです。日中以外の国にはほぼ大学入試がなく、高校を卒業することで大学に入る権利を得るのです。高校卒業が重要となるため本来は中高一貫が教育の理想です。私の住む宮城県には中高一貫校が数少ないのですがそのような現状からも日本の教育の遅れを伺えると思いました。外国では、大学の医学部は抽選で入学者を決めています。それにもかかわらず、手術での事故は1つも起こっていません。このことを聞いて大学受験の方法にこんなにも違いがあると知り、とても驚きました。もし、日本で同様のことを行っていれば事故が多発することでしょう。このようなことから日本は海外の最低とも言えると思います。

では、何故日本の教育が遅れをとっているのでしょうか。それについて尾木教授は、1つ目の理由として日本政府は教育にお金をかけていないことを挙げました。政府の代わりに家庭の負担が大きくなっているため、教育をするという役割が家庭に分担されてしまっています。

続いて2つ目の理由としては、海外の習得主義と日本の学年主義の違いが挙げられました。海外では、できるまでとことん自分の力で学ぶという習得主義が用いられています。この主義により留年することですっかりした学力を身に着けたいという考えができ、小学校留年も多く自らの意志で留年する人も多いそうです。それに比べ日本は、進んで進級させるという学年主義を持ち、例えば不登校だったり荒れていたりしても皆と同じように進級させてしまいます。私は小学校での留年を上手く想像できませんでしたが、それは日本にいて日本で育ったからであって世界を見れば変わったことではないのだと気づきました。また、留年は恥では無く、この主義の違いにより教育のレベルの差が広がっているのだと思いました。

3つ目の理由は、教諭にあると尾木教授はおっしゃいました。日本の先生たちは海外の先生に比べて3倍以上部活に関係する仕事をしています。逆に、海外の先生に比べて特に教材研究、保護者への対応が足りず、世界の平均水準にも達していません。教育のレベルが世界一であるオランダでは、教員の教育実習期間が4か月もあります。日本は2、3週間と短い方です。このことをオランダ人に伝えると、

「それだけで教壇に立てるのか。」

と言われてしまいます。日本では本来の教諭の姿が失われつつあるのです。日本の先生が部活でこれほど働いていることは意外でした。教材研究や保護者への対応はとても大

事なことなのでしっかり働く時間を確保することが必要だと思います。しかし、1974年に田中角栄が行っていた調整手当が取り上げられ、今の教員の労働状況は厳しくなっています。そのため教員の労働状況も考えた上で適当な改善方法を導くのが良いと思いました。

私は尾木教授に、小・中学校どちらの先生もすることは可能かどうか質問しました。すると尾木教授は出来ると言ってくれました。尾木教授の奥さんが実際に小・中学校両方の先生を務めていたそうです。体験談を聞いて明確にイメージできたので良かったです。それから、尾木教授の教員人生も聞くことが出来ました。尾木教授は塾で小学生を教え、中学校、高校、大学、大学院で教えたことがあるそうです。私はこのような先生は他にいるのかと思いました。さらに、尾木教授は進学校から荒れた学校に移って教えるなど幅広い体験をされてきました。この体験をきっかけに尾木教授は本を書き、その本が人気を集め34歳の時初めてテレビ出演をしました。「尾木ママ」という愛称は、2009年12月30日の「ホンマでっかTV」でさんまさんに命名されたそうです。その時のことを尾木教授は、はっきりと細かく覚えていてとても面白かったです。

今回、尾木教授のお話を聞き驚くことばかりでした。日本の教育はこんなにも進んでいないと知り、これからの目指すべき教育の姿を考えることが出来ました。いつもはテレビで拝見している尾木教授ですが実際に会って話すと、優しく目を見て話してくれたので温かい気持ちになりました。この体験によって将来の理想像が明確になりました。尾木教授に出会えて本当に良かったと思いました。未来の教育をしっかりと担えるように頑張ります。

深いお話

東大見学会企業大学訪問1日目の夜に、二高OB・OGの先輩方と座談会をしました。現役東大生の方や有名大学の方、さらに東大出身の社会人の方も来てくれました。私はたくさん質問をして、あらゆるアドバイスを頂くことが出来ました。

具体的には、数学が苦手だった先輩に数学の克服方法として、赤チャートの問題の横に当たったか印をつけて間違った問題だけもう一度解きなおすというものを教えていただきました。これを何回も続けていけば、必ず力になると思うので積極的に実践していきます。それから、暗記をするときは口に出すと良いことも教わりました。書くだけでなく口に出してそれを耳で聞くことで色々な感覚を使うので覚えやすくなるそうです。効率的に学ぶのも必要なのでこの方法を知ることが出来て良かったです。そして、毎日少しでも、何かをすることが大切だと言われました。よく聞く言葉ですが、日々の積み重ねが大事なのだと改めて感じました。

現役東大生の先輩から、大学入試のことについて教えていただきました。すると、英語の試験は東大よりも東北大の方が難しいと言っていたのでとても驚きました。さらに、社会の試験に関しては東大よりも一橋大の方が、難易度が高いと聞きました。東京大学

の試験は他に比べて格段にレベルが高いと思っていましたが、教科によって難易度が一番高い大学が異なることを知りました。先輩の中には、数学80点中26点で受かった方もいました。他の教科で、ものすごく良い点数をとったのだなと尊敬しました。また、こんな戦い方もあるんだよと言われて、工夫して受験していることが素晴らしいなと思いました。

実際に東京大学や有名大学の方とじっくり話したのは初めてでした。日本のトップレベルの方々とたわいもない話から、受験に関する大事な話まですることができて、とても貴重な体験になりました。そして今回この企画に参加して本当に良かったと思いました。自分は将来どうなりたいのか、そのためには何をすれば良いのか。私は、これが分かっていませんでしたが、この企画を通して見つけることが出来ました。未来の日本は私たちが背負っていかなければならない。また、世界中にもっと羽ばたいて世界で生きていくことが必要だと思いました。これから、何かに向かって進むとき、この体験を思い出して頑張っていこうと思います。ありがとうございました。